

中津城下町遺跡27次調査

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

中津市教育委員会

序

大分県の最北部に位置する中津市は、国指定名勝耶馬溪など緑豊かな自然や城下町の香りを色濃く残す、自然と文化の町として知られています。近年は、自動車関連会社などの進出を受け、工業の町としての新たな側面を見せはじめています。

本年度、市内では民間開発に伴う発掘調査が行われ、県道拡幅に伴う発掘調査も大分県教育委員会により実施されております。

本書はこうした開発の中で、中津城下町遺跡において行われた集合住宅建設に先立つ発掘調査の報告書です。調査により江戸時代の土坑などが発見されました。

本書が学術研究資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護や活用への一助となりましたら幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまでご協力賜りました株式会社大英興産代表取締役 熊谷大輔様をはじめ、調査に従事して下さった方々に対し深甚から感謝申し上げます。

令和4年3月31日

中津市教育委員会
教育長 栗田 英代

例 言

1. 本書は大分県中津市教育委員会が平成26(2014)年度に実施した中津城下町遺跡27次調査の発掘調査報告書である。
2. 確認調査は浦井が担当した。本調査は株式会社大英興産より委託を受けた中津市教育委員会が行い、荻が担当した。
3. 出土遺物の整理作業は、平成27～令和3年度に実施し、遺物は旧東谷小学校に保管している。
4. 遺物の洗浄・注記・実測・拓本・浄書・観察表作成等は、旧今津公民館・旧和田公民館にて行い整理作業員の協力を得た。
5. 本書の執筆・編集は浦井が担当した。

目 次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と成果	
第1節 調査の方法	5
第2節 調査の成果	5
第4章 総括	22
写真図版	
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図 調査区位置図	1
第2図 中津市内主要遺跡分布図	4
第3図 遺構配置図	5
第4図 SK-1・2・6・7・8・11・12平・断面図、SK-3・4・5・9平・断面土層図	8
第5図 SK-13~18・20~22・24~26・28~30平・断面図、SFK-1・SD-1平・断面土層図	9
第6図 SD-2~4平・断面図、トレンチ平・断面土層図	10
第7図 SK-1~3出土遺物	11
第8図 SK-3・4出土遺物	12
第9図 SK-4~6・8出土遺物	13
第10図 SK-9・11~13出土遺物	14
第11図 SK-14~18・20~22・24・25出土遺物	15
第12図 SK-26・28~30、SFK-1、SD-1・2出土遺物	16
第13図 SD-2~4出土遺物	17
第14図 調査区北端2層出土遺物	18
第15図 調査区北端2層、検出時、上層検出時出土遺物	19
第16図 上層検出時1トレ・2トレ出土遺物	20
第17図 攪乱出土遺物	21

表 目 次

第1~4表 出土遺物観察表	23~26
---------------	-------

写 真 図 版 目 次

写真図版1 調査区(上層)全景 調査区(中層)全景	
写真図版2 SK-4 遺物出土状況 SK-9 完掘状況 SK-11 遺物出土状況 SK-15 完掘状況 SK-28 遺物出土状況 SD-3 完掘状況	
写真図版3 出土遺物	

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

平成26年6月20日、中津市1516番1（京町）地内の埋蔵文化財包蔵の照会がなされた。照会地は中津城下町遺跡である旨回答し、平成26年6月25日、施主より文化財保護法第93条の届出が提出された。これを受けて、平成26年7月11日に確認調査を実施し、設定した2か所のトレンチから遺構・遺物が検出された。施主へ工法変更による遺構の保存について協議したが、工法変更は困難との結論に至り、遺跡を記録保存するための本調査を行うことが決定した。8月19日、工事主体者と中津市長名にて発掘調査委託契約等を締結し、8月21日から9月18日まで本調査を実施した。

調査の結果、遺構は上層・中層の2面に構築されており、両層合わせて土坑30基、溝状遺構4条などを確認した。平成27年度より報告書作成作業を開始した。作業は委託者の要望により工程を複数年度に分割して実施し、令和4年3月の本書刊行をもって本事業を完了した。



第1図 調査区位置図

第2節 調査体制

平成26年度(2014)年度

中津市教育委員会 教育長
" 教育次長
" 文化財課長
" " 主任研究員兼文化財係長
" " 主任

廣畑 功
後藤 義治
今津 時昭
高崎 章子
浦井 直幸(整理担当)

平成27年度(2015)年度

中津市教育委員会 教育長

廣畑 功

中津市教育委員会	教育次長	白木原 忠
"	文化財課長	平原 潤
"	" 主任研究員兼文化財係長	高崎 章子
"	" 副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)
平成 28 (2016) 年度		
中津市教育委員会	教育長	廣畑 功
"	教育次長	白木原 忠
"	社会教育課長	高尾 良香
"	" 文化財室長	高崎 章子
"	" 主幹	花崎 徹
"	" 副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)
平成 29 (2017) 年度		
中津市教育委員会	教育長	廣畑 功
"	教育次長	白木原 忠
"	社会教育課長	高尾 良香
"	" 文化財室長	高崎 章子
"	" 主幹	花崎 徹
"	" 副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)
平成 30 (2018) 年度		
中津市教育委員会	教育長	廣畑 功
"	教育次長	栗田 英代
"	社会教育課長	高尾 良香
"	" 文化財室長	高崎 章子
"	" 主幹	花崎 徹
"	" 副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)
平成 31 (令和元、2019) 年度		
中津市教育委員会	教育長	栗田 英代
"	教育次長	大下 洋志
"	社会教育課長	高尾 良香
"	" 文化財室長兼歴史博物館長	高崎 章子
"	" 主幹兼歴史博物館副館長	花崎 徹
"	" 副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)
令和 2 (2020) 年度		
中津市教育委員会	教育長	栗田 英代
"	教育次長	大下 洋志
"	社会教育課長	岩丸 祐子
"	" 歴史博物館長	高崎 章子
"	" 副館長兼主幹	花崎 徹
"	" 副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)
令和 3 (2021) 年度		
中津市教育委員会	教育長	栗田 英代
"	教育次長	黒永 俊弘
"	社会教育課長	岩丸 祐子
"	" 歴史博物館長	高崎 章子
"	" 副館長兼主幹	花崎 徹
"	" 副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)

発掘調査は下記の皆さんの協力による。(50 音順、敬称略)

太田博泰 奥中廣雪 小野照行 小野礼子 川口政代 金崎ミチ子 角美枝子 宮津しのぶ 若木和美
山本高亮

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約8万4千人、面積491km²を誇る。北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頼山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝那馬溪として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。中津城下町遺跡は山国川の支流中津川河口に位置する。

第2節 歴史的環境

旧石器時代 市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡(35)や法垣遺跡(19)で発見されている。

縄文時代 上畑成遺跡(47)で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡(18)で陥し穴が発見された。遺跡数は縄文後期から増大し、植野貝塚やボウガキ遺跡(21)、妊婦像の土偶が出土した高畑遺跡がある。法垣遺跡は複数の掘立柱建物が発見され注目されている。

弥生時代 前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡(13)で貯蔵穴群が確認された。続く中期では二列埋葬の土壇墓・住居跡・溝が福島遺跡(25)で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡(28)で検出された。

古墳時代・古代 亀山(亀塚)古墳(58)が挙げられ、近年の調査により埴輪片が出土している。その他の墳墓の多くは下毛原台地の南西に造営される。5世紀中頃には山国川に面する脇助野地遺跡(12)で方形周溝墓が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓(11)が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群(29)、城山古墳群(34)、城山横穴墓群(33)などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡(7)で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡(45)や定留遺跡(47)でまともに見られている。古代には7世紀末に白鳳系の相原廃寺(5)が建立される。また、遅くとも8世紀初頭には沖代平野に条里制(4)が施行されたと考えられ、条里の南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。8世紀後半には官道南側に下毛郡衙正倉に推定される長者屋敷官衙遺跡(20)が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、草場窯跡(37)、睡ヶ迫窯跡(38)、洞ノ上窯跡などがある。集落遺跡としては10世紀代の緑釉陶器や墨書土器が出土した三口遺跡がある。

中世 長久寺の田丸城跡(24)など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城(1)が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

近世 関ヶ原の合戦後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632(寛永9)年に完成を見る(中津城下町遺跡2)。1717(享保2)年に奥平氏が入部し、1871(明治4)年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



- | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 中津城 | 13. 上ノ原平原遺跡 | 25. 福島遺跡 | 37. 草場窯跡 | 49. 諸田遺跡 |
| 2. 中津城下町遺跡 | 14. 大池南遺跡 | 26. 福島地下式横穴 | 38. 跡ヶ迫窯跡 | 50. 定留貝塚 |
| 3. 豊田小学校校庭遺跡 | 15. 佐知久保畑遺跡 | 27. 前田遺跡 | 39. ホヤ池窯跡 | 51. 定留遺跡 |
| 4. 沖代地区条里跡 | 16. 佐知遺跡 | 28. 森山遺跡 | 40. 大谷窯跡 | 52. 天貝川遺跡 |
| 5. 相原庵寺 | 17. 植遺跡 | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依遺跡 | 53. 和間貝塚 |
| 6. 三口遺跡 | 18. 黒水遺跡 | 30. 犬丸川流域遺跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 田尻大迫遺跡 |
| 7. 相原山首遺跡 | 19. 法垣遺跡 | 31. 畑中遺跡 | 43. 中須遺跡 | 55. 是則遺跡 |
| 8. 鶴神社裏山古墳 | 20. 長者屋敷官衙遺跡 | 32. 安平遺跡 | 44. 若旗遺跡 | 56. 全徳遺跡 |
| 9. 坂手隈横穴墓群 | 21. ボウガキ遺跡 | 33. 城山横穴墓群 | 45. 十前垣遺跡 | 57. ガラスノ遺跡 |
| 10. 弊旗塚古墳 | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群 | 46. 野田遺跡 | 58. 亀山古墳 |
| 11. 上ノ原横穴墓群 | 23. 原遺跡 | 35. 才木遺跡 | 47. 上畑成遺跡 | 59. 石室池遺跡 |
| 12. 助助野地遺跡 | 24. 田丸城跡 | 36. 城山窯跡 | 48. 諸田南遺跡 | 60. 舞手川流域遺跡 |

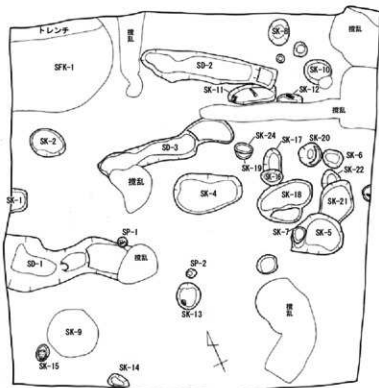
第2図 中津市内主要遺跡分布図 (S=1/50,000)

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

1. 調査の概要 (第3図)

本調査は建物建設範囲のうち100mを対象とし、重機により掘り下げを行った。所々近代の擾乱が認められたものの、遺構密度は高い状況であった。遺構は2層(上層・中層)で検出され、各標高は概ね上層は約3.8~3.9m前後、中層は3.7m前後である。また、調査区南を排出土置き場にした関係上、中層の南側は調査できていない。遺物はバンケース6箱分が出土した。



上層遺構配置図

第2節 調査の成果

SK-1 (第4・7図)

上層の調査区北端で検出した。調査西壁沿いで検出した。一部調査区外へ延びる。最大長60cm、最大幅44cm、深さ10cmを測る。遺物1は種別不明の陶器である。

SK-2 (第4・7図)

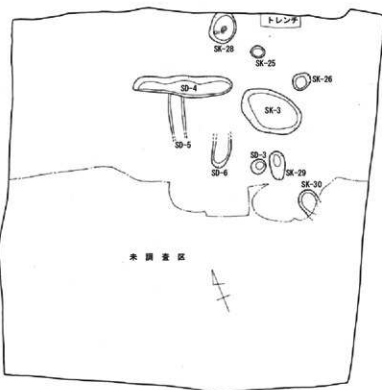
上層の調査区西よりで検出した。最大長98cm、最大幅74cm、深さ30cmを測る。遺物2は種別不明の陶器である。

SK-3 (第4・7・8図)

中層の調査区やや北東よりで検出した。最大長170cm、最大幅116cm、深さ76cmを測る。遺物は磁器皿、陶器碗・皿・片口・鏝鉢、土師質土器小皿、骨(牛?)など(3~21)が出土している。4は型打成形。18世紀後半の遺構と考えられる。

SK-4 (第4・8・9図)

上層の調査区中央付近で検出した。最大長180cm、最大幅102cm、深さ20cmを測る。遺物は磁器盤・皿・小杯・碗・蓋、陶器壺・碗、瓦、土師質土器皿、土鈴など(22~36)が出土している。22は葉脈を線刻



中層遺構配置図

第3図 遺構配置図 (S=1/100)

する。34 は先端に菱形と円形の透かしがある。

SK-5 (第5・9図)

上層の調査区東よりで検出した。最大長136cm、最大幅108cm、深さ60cmを測る。遺構内より木片や人頭大の礫、磁器合子、陶器碗・播鉢、土師質土器小皿・焙烙、砥石など(37～44)が出土している。41は灯明皿であろう。

SK-6 (第4・9図)

上層の調査区東よりで検出した。最大長54cm、最大幅46cm、深さ26cmを測る。磁器碗、陶器碗、土師質土器鍋など(45～49)が出土した。

SK-7 (第4・9図)

上層の調査区東よりで検出した。最大長44cm、最大幅36cm、深さ15cmを測る。50は土師質土器鍋である。

SK-8 (第4・9図)

上層の調査区北よりで検出した。最大長68cm、最大幅56cm、深さ16cmを測る。51は土師質土器皿、52は甗壺である。

SK-9 (第4・10図)

上層の調査区南西で検出した。最大長134cm、最大幅128cm、深さ50cmを測る。丸い平面形と壁面の礫の出土状況から井戸跡の可能性がある。磁器小坏・碗・湯呑・陶器片口、土師質土器杯、こね鉢、火打石など(53～60)が出土した。

SK-11 (第4・10図)

上層の調査区中央北よりで検出した。最大長128cm、最大幅52cm、深さ16cmを測る。62は上野・高取系の水差、陶器、瓦質土器、骨など(61～64)が出土した。

SK-12 (第4・10図)

上層の調査区北東よりで検出した。最大長66cm、最大幅28、深さ18cmを測る。動物の骨など(65・66)が出土した。

SK-13 (第5・10図)

上層の調査区南よりで検出した。最大長72cm、最大幅62cm、深さ19cmを測る。陶器播鉢、土師質土器など(67～69)が出土した。

SK-14 (第5・11図)

上層の調査区南端で検出した。最大長56cm、最大幅30cm、深さ18cmを測る。磁器瓶、陶器皿など(70～72)が出土した。

SK-15 (第5・11図)

上層の調査区南西端で検出した。最大長46cm、最大幅34cm、深さ5cmを測る。底面より川原石が据え置かれるように出土した。73は碁石である。

SK-16 (第5・11図)

上層の調査区中央東よりで検出した。最大長60cm、最大幅44cm、深さ16cm。74は陶器碗。

SK-17 (第5・11図)

上層の調査区中央東よりで検出した。最大長54cm、最大幅48cm、深さ17cmを測る。陶器鉢、鉄製品など(75・76)が出土した。

SK-18 (第5・11図)

上層の調査区中央東よりで検出した。最大長 152cm、最大幅 108cm、深さ 18cmを測る。77は陶器碗である。

SK-20 (第5・11図)

上層の調査区中央東よりで検出した。最大長 64cm、最大幅 60cm、深さ 72cmを測る。磁器、陶器碗、土師質土器皿、砥石など (78～83) が出土している。

SK-21 (第5・11図)

上層の調査区東よりで検出した。最大長 102cm、最大幅 90cm、深さ 46cmを測る。磁器皿、陶器甕・瓶、土師質土器皿など (84～89) が出土した。

SK-22 (第5・11図)

上層の調査区東よりで検出した。最大長 52cm、最大幅 26cm、深さ 34cmを測る。陶器、瓦質土器火鉢、動物の骨など (90～92) が出土した。

SK-24 (第5・11図)

調査区中央で検出した。最大長 50cm、最大幅 28cm、深さ 9cmを測る。93は陶器の水差である。

SK-25 (第5・11図)

中層北よりで検出した。最大長 38cm、最大幅 32cm、深さ 10cmを測る。94は陶器の片口か。

SK-26 (第5・12図)

中層の調査区北東よりで検出した。最大長 52cm、最大幅 44cm、深さ 40cmを測る。95は陶器皿、96は須恵質土器である。

SK-28 (第5・12図)

中層の調査区北端で検出した。最大長 82cm、最大幅 68cm、深さ 27cmを測る。土師質土器皿、銅製品の鈎など (97～101) が出土した。

SK-29 (第5・12図)

中層の調査区中央東よりで検出した。最大長 76cm、最大幅 42cm、深さ 62cmを測る。磁器、土師質土器皿、青銅製品など (102～104) が出土した。

SK-30 (第5・12図)

中層の調査区中央東よりで検出した。最大長 60cm、最大幅 52cm、深さ 15cmを測る。105は瓦質土器鍋。106は動物の歯である。

SFK-1 (第5・12図)

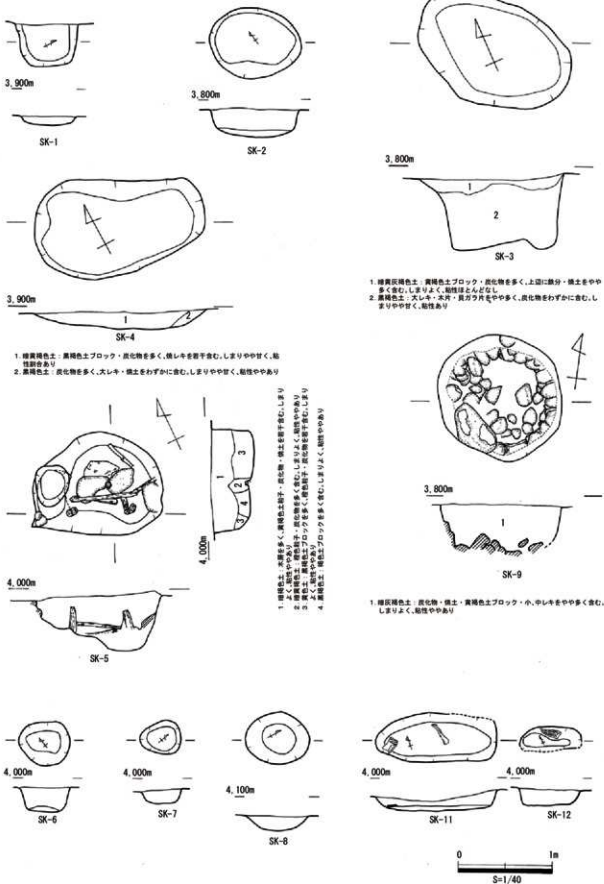
上層の調査北西端で検出した。最大長 280cm+ α 、最大幅 240cm+ α 、深さ 84cmを測る。炭・焼土が多数出土しており、火災処理土坑と考えられる。107は磁器碗、108は陶器皿である。

SD-1 (第5・12図)

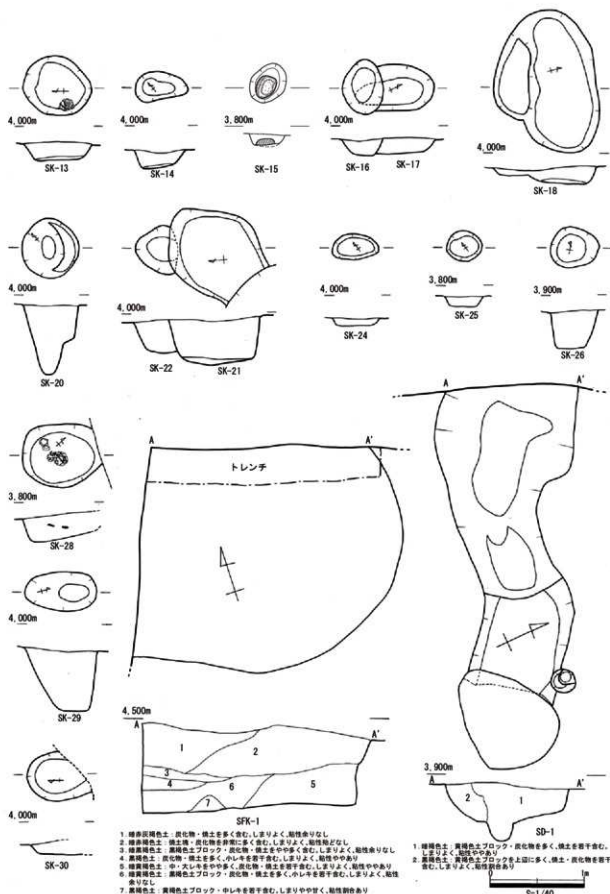
上層の調査区西端で検出した。最大長 404cm、最大幅 84cm、深さ 62cmを測る。陶器播鉢、土師質土器杯など (109～111) が出土した。

SD-2 (第6・12・13図)

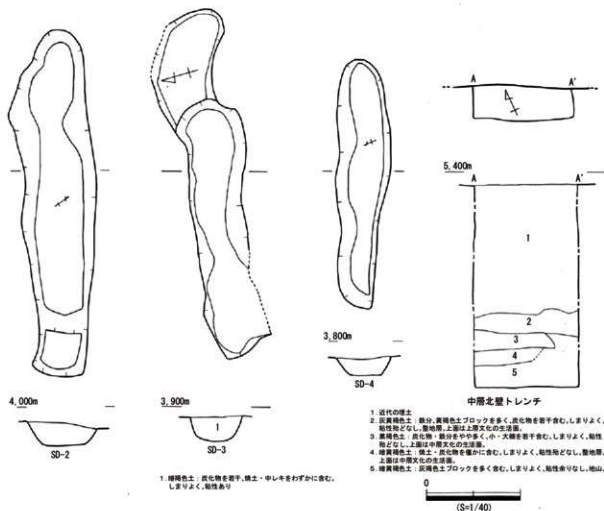
上層の調査区北よりで検出した。最大長 366cm、最大幅 76cm、深さ 26cmを測る。磁器小坏・碗・鬺付油壺、陶器皿・德利・播鉢・皿・メンコ状遺物・土師質土器、瓦質土器、型打土製品、銅製品など (112～127) が出土した。



第4図 SK-1・2・6・7・8・11・12 平・断面図、SK-3・4・5・9 平・断面土層図



第5図 SK-13~18・20~22・24~26・28~30平・断面図、SFK-1・SD-1平・断面土層図



第6図 SD-2~4 平・断面図、トレンチ平・断面土層図

SD-3 (第6・13図)

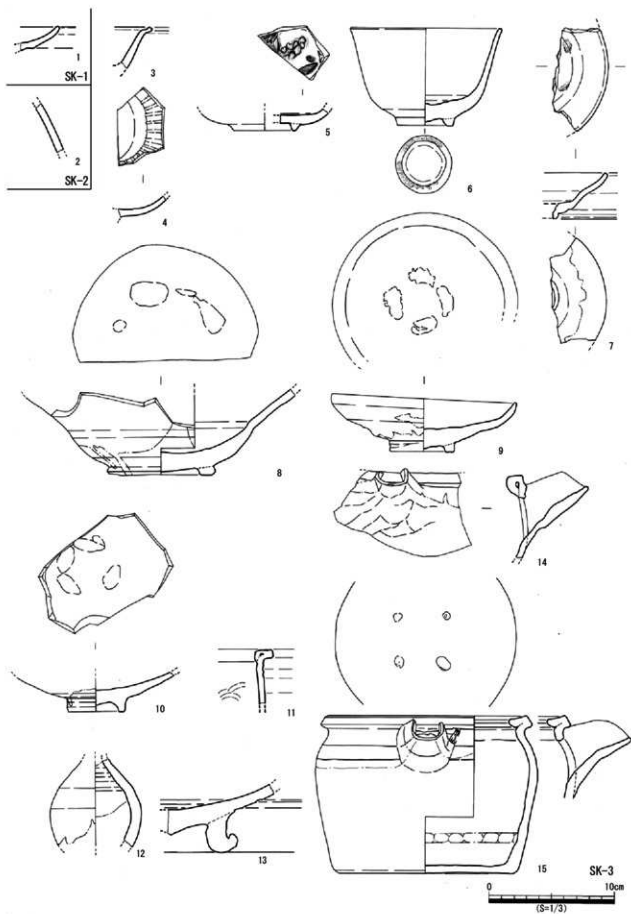
上層の調査区中央で検出した。最大長366cm、最大幅56cm、深さ26cmを測る。陶器皿、製塩土器、瓦質土器壺・甕、須恵質土器、煙管など(128~134)が出土した。

SD-4 (第6・13図)

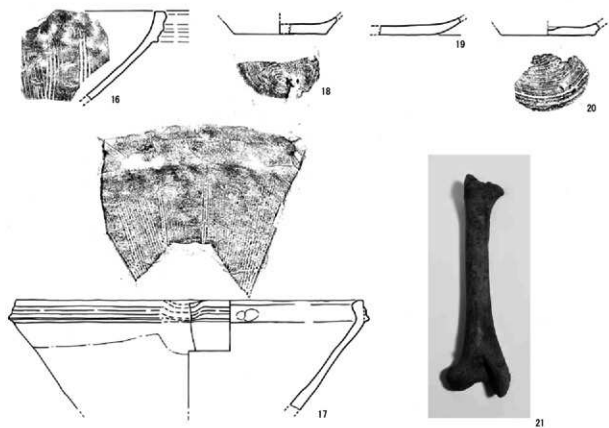
下層の調査区中央北よりで検出した。最大長262cm、最大幅48cm、深さ20cmを測る。陶器碗、土師質土器皿、鉄製品など(135~139)が出土した。

調査区北端2層・遺構検出時・トレンチ・攪乱出土遺物 (第14~17図)

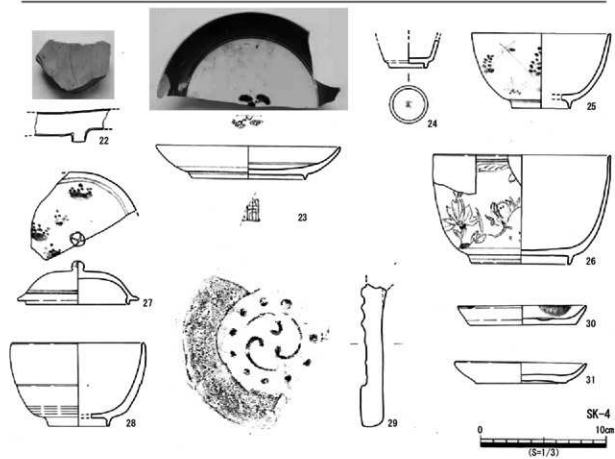
調査区北端2層より磁器碗・皿・間香炉、陶器甕・壺・皿・鉢・香炉・水差、土師質土器皿・焙烙、焼塩壺、銅銭など(140~159)が出土した。検出時は磁器小皿・小坏・碗・瓶、陶器皿・碗・鉢・火入れ・插鉢・蓋・壺、土師質土器皿・焙烙、須恵器など(160~181)が出土した。1・2トレンチからは磁器碗・皿、土師質土器皿、陶器皿、瓦質土器(182~195)が出土した。攪乱からは磁器皿・碗・小坏、陶器碗・火入れ・皿、土師質土器焙烙、焼塩壺、瓦など(196~211)が出土した。



第7図 SK-1~3 出土遺物



SK3

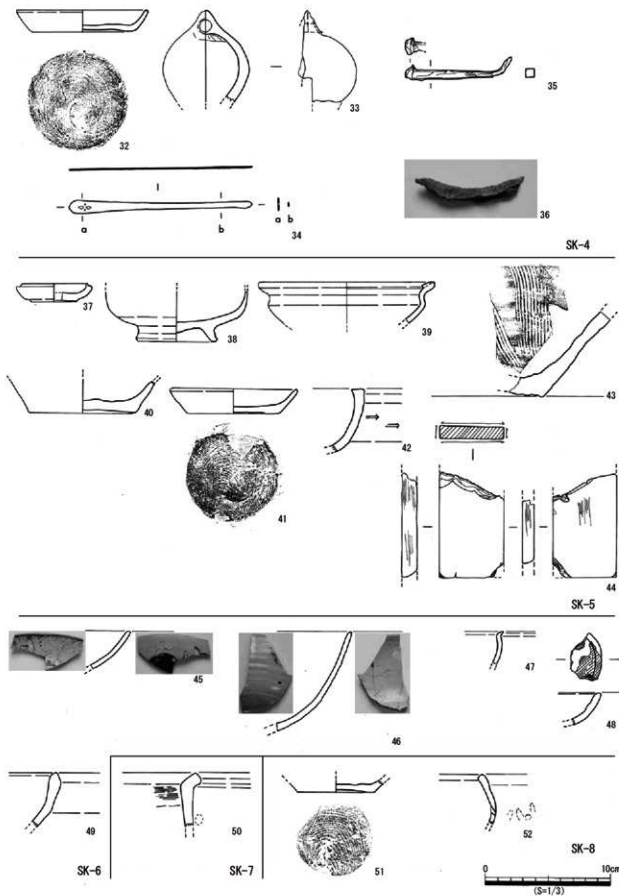


SK-4

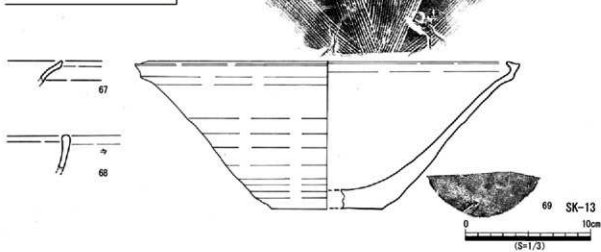
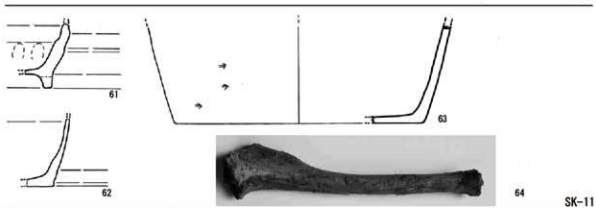
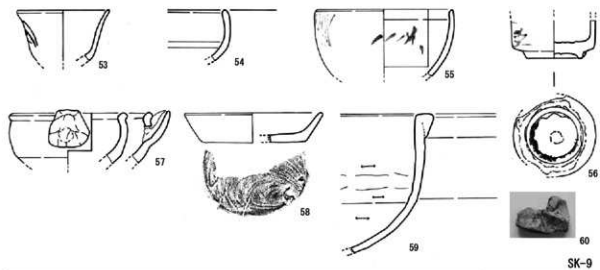
10cm

(S-1/3)

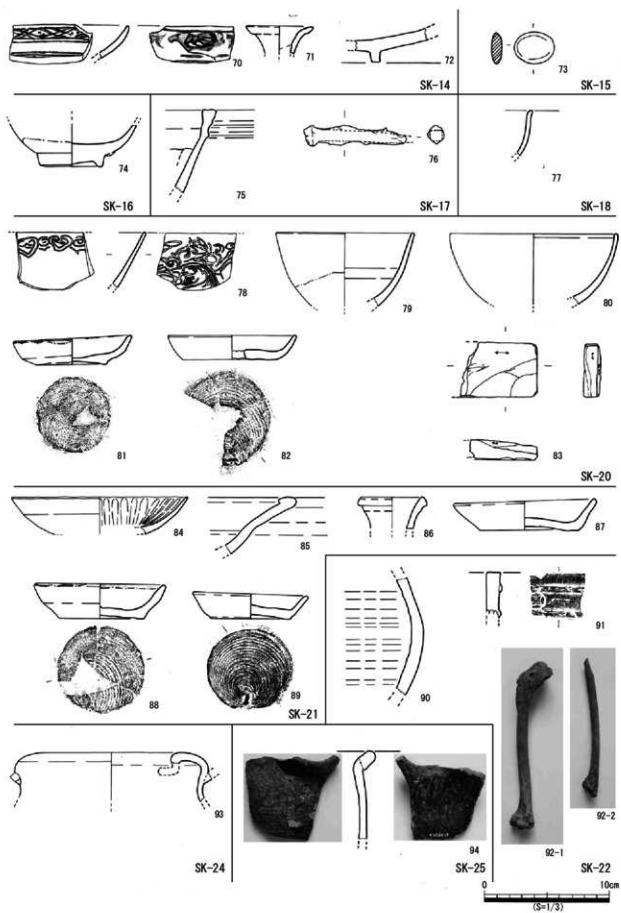
第8図 SK-3・4 出土遺物



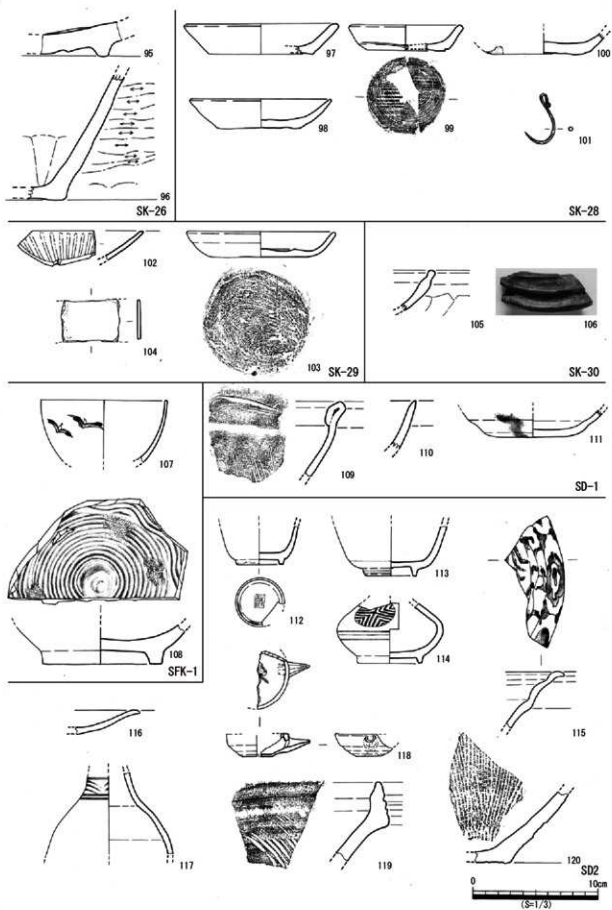
第9図 SK-4~6・8 出土遺物



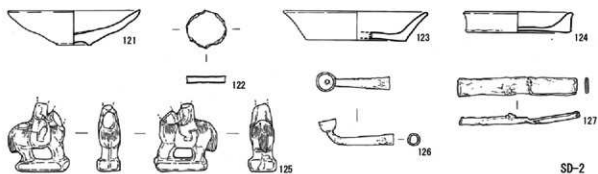
第10図 SK-9・11~13 出土遺物



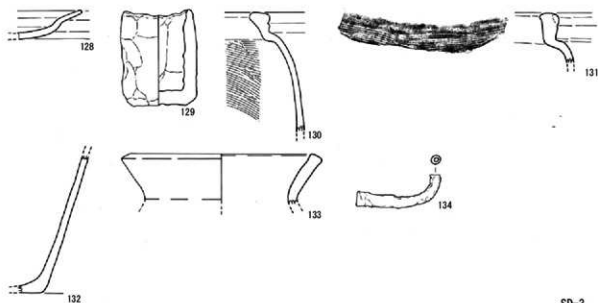
第11圖 SK-14~18・20~22・24・25 出土遺物



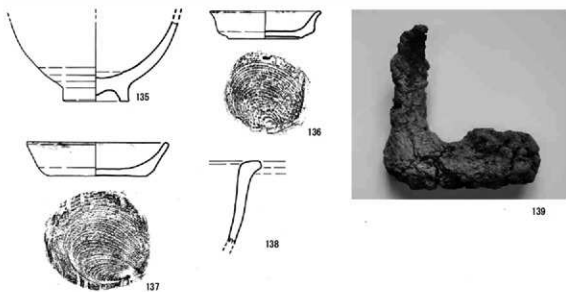
第12図 SK-26・28~30・SFK-1・SD-1・2 出土遺物



SD-2



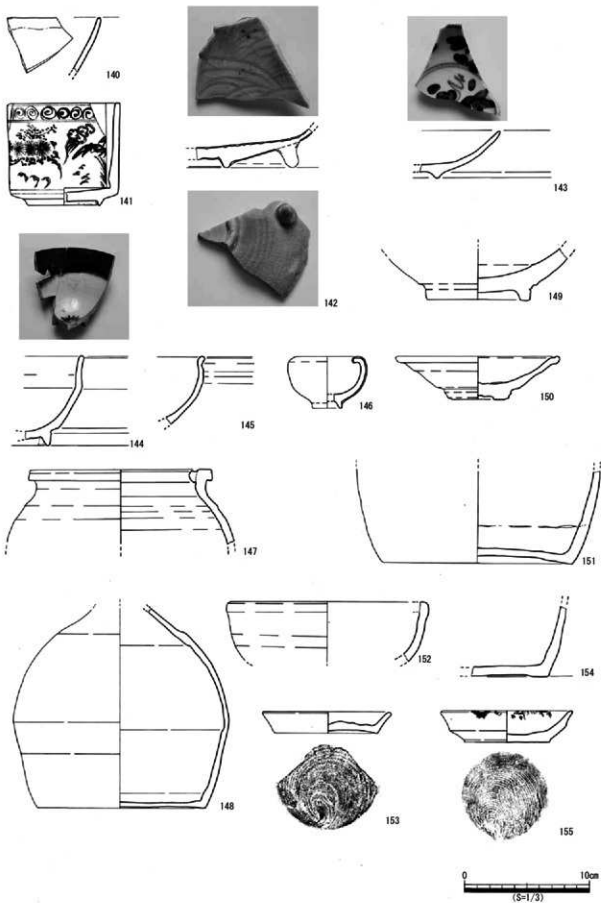
SD-3



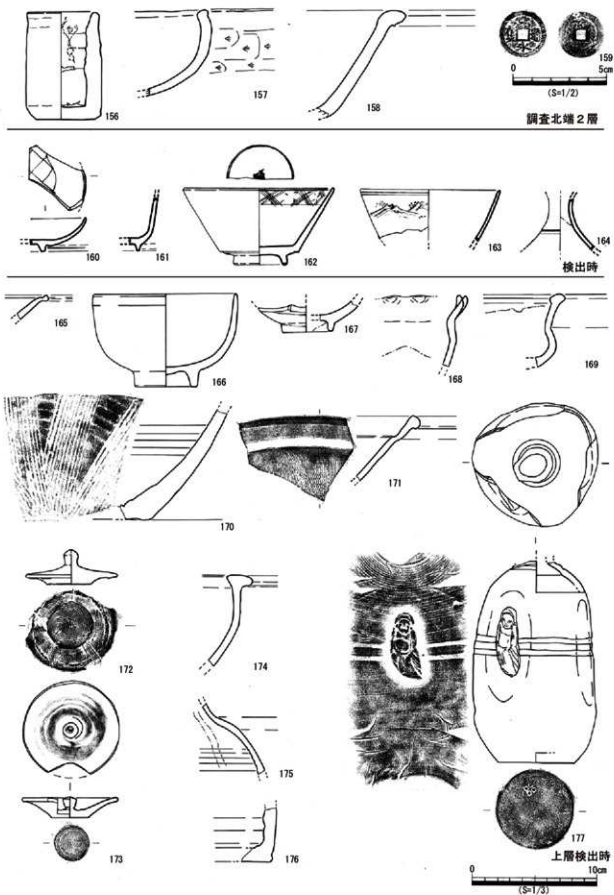
SD-4



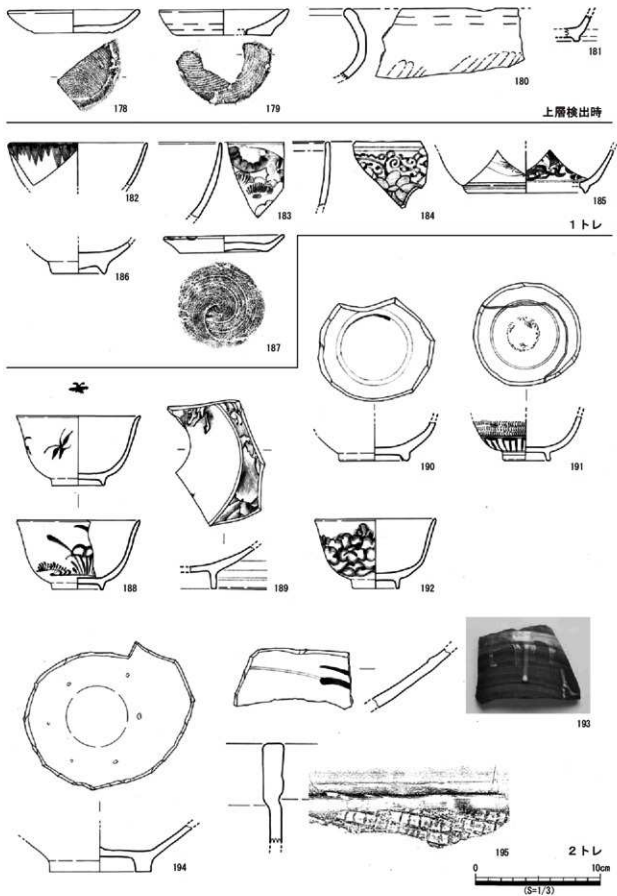
第13図 SD-2~4 出土遺物



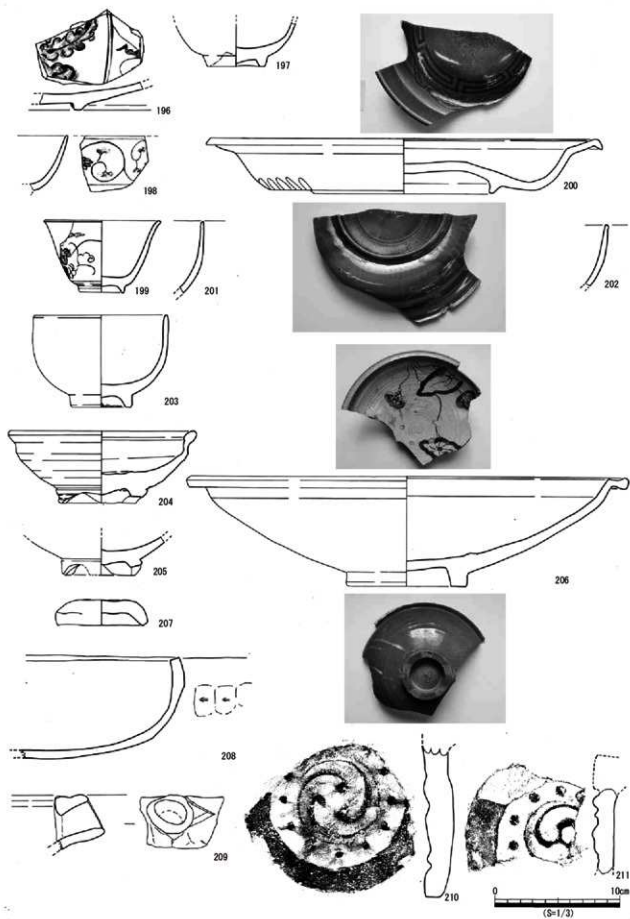
第14図 調査区北端2層 出土遺物



第15図 調査区北端2層・検出時・上層検出時出土遺物



第16図 上層検出時 1トレ・2トレ 出土遺物



第17図 攪乱出土遺物

第4章 総括

調査区からは江戸時代後期を中心とした遺構・遺物が確認された。以下、それらについて概観する。

【遺物】

17世紀代:当該期の遺物は肥前(唐津)系溝線皿(150)、上野・高取系の水差(62・154)などが出土している。出土遺物全体からみて少量に留まっている。これらの遺物は調査区南の殿町地区(中津市2004)など城下町の発掘調査においても量は多くないものの出土しており、このころから北九州・西北九州より物資の搬入があったことを知る。

18世紀前半:当該期から遺物の数量は増加する。雨降り文を施す磁器碗(182)など肥前系の磁器類が出土している。また、今回の調査では土師質の灯明皿が13点出土しているが、これらの口径の平均は10.2cmである。この数値は中津城下町遺跡では18世紀前半代の皿の法量にあたる。

18世紀後半:当該期は肥前系磁器類の出土が多い。磁器碗(25・26・183・184)などが多数を占める。

19世紀代:筒型碗(141)などが当該期の遺物と考えられるが、全体量は少ない印象を受ける。

【遺構】

遺物が出土し番号を付した遺構は、土坑30基、火災処理土坑1基、長細い溝状の遺構(土坑といってもよいかもしい)の4基である。各遺構は出土遺物の多寡によりそのすべての時期を明確にできていない。時期を推定し得たのは、17世紀代はSK-3、SK-11、18世紀代後半はSK-4、SD-2の4基である。

検出した多くの土坑(溝状の遺構含む)は廃棄土坑と考えられる。今回の調査区の西側は京町筋の南北方向の幹線道が走るが、道から約10m東に調査区がある。幕末の絵図では調査区一帯は町屋とされ、おそらく道に面した位置には建物が建ち、その後方(東側)は建物の裏手にあたり、庭などの生活空間が存在したと思われる。確認された廃棄土坑はその空間に構築され、井戸の可能性のあるSK-9もその生活空間を構成していたものの可能性がある。一方、礎盤状の川原石を底面においたSK-15は建物の柱を支えていたと思われる。道沿いの建物に伴う遺構の可能性もある。

また、中層北に設定したトレンチからは中層下20cm下位に古い文化層が確認されており、調査区には合計3時期の生活面が存在したと思われる。

今回の調査は約100mという狭い調査区であったが、多くの貴重な情報を得ることができた。今回の調査が今後の中津城下町遺跡の実態解明に資することを期待したい。

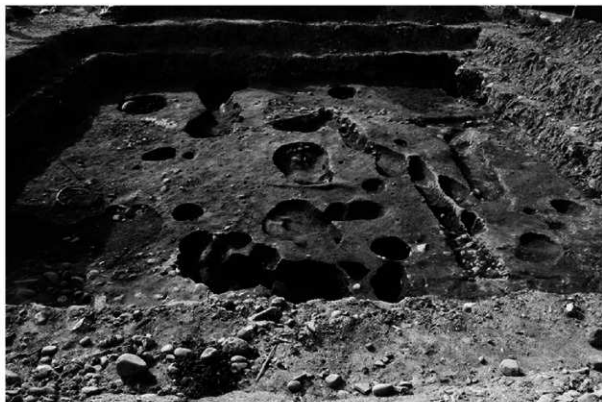
以上、中津城下町遺跡27次調査の発掘調査成果とその意義を述べ、総括とする。

(参考文献)

中津市教育委員会「中津城下町遺跡殿町地区」中津市文化財調査報告第32集 2004

第1表 出土遺物観察表

遺物番号	遺構番号	器種・種類	寸法 (cm)			成形	施作技法	文様 (調整)	色調	胎土	備考
			口径	高さ	底径						
1	SK-1	陶器-水甕	(1.8)			ロウロ	透明釉	灰色		裏人あり	
2	SK-2	陶器-水甕	(3.8)			ロウロ	釉施	黒褐色			
3	SK-3	磁器-茶碗	(3.2)			ロウロ	透明釉				
4	SK-3	磁器-茶碗	(1.4)			梨子口	透明釉			青白磁	
5	SK-3	磁器-茶碗	7.2	(5.0)		ロウロ	透明釉			反転還元 黒褐色の染付 透黄褐色 黒褐色 砂目磁	
6	SK-3	陶器-瓶	(12.0)	3.7	4.4	ロウロ	透明釉	灰黄		内 胎土目録	
7	SK-3	陶器-蓋?	(3.6)			ロウロ				内 胎土目録	
8	SK-3	陶器-蓋?	(8.4)	(8.4)		ロウロ	鉄輪-鉄輪-土煎輪	ロウロ+焼色		上唇:胎土目録 裏人:焼付あり 内 胎土目録4ヶ所 裏人:胎土目録4ヶ所	
9	SK-3	陶器-蓋	14.6	4.2	5.1	ロウロ	反輪	反褐色		裏人あり 内 胎土目録4ヶ所	
10	SK-3	陶器-蓋	(2.7)	4.3		ロウロ	反輪	灰白色		内 胎土目録4ヶ所	
11	SK-3	陶器-小瓶?	(4.3)			ロウロ	内 蓋輪、胴内9ヶ所 外 巻物?		白色胎子 0.5mm少量	口縁部2内側に折付	
12	SK-3	陶器-小瓶?	最大径 (7.2)	(6.8)		ロウロ	外 巻物の上:反輪	褐色		裏人あり 反転還元	
13	SK-3	陶器-不明(脚付の蓋?)	(4.6)			ロウロ	透明釉	灰		裏人あり 脚部底:砂目磁	
14	SK-3	陶器-片口	(8.3)			ロウロ	透明釉	褐色			
15	SK-3	陶器-片口	(15.0)	12.5	13.8	ロウロ	鉄輪	灰黄		上唇:高取高? 内 胎土目録4ヶ所 口縁部7ヶ所に胎土目録(7本蓋?)	
16	SK-3	陶器-磁鉢	(8.9)			ロウロ			白色胎子 0.5mm少量		
17	SK-3	陶器-磁鉢	(27.0)	(8.8)		ロウロ	外 上部に鉄輪	赤褐色		破片	
18	SK-3	土師質土器-蓋	(1.1)	(7.3)					赤色胎子-黄色胎子-白色胎子 胎子:胎土目録 胎子:胎土目録	反転還元	
19	SK-3	土師質土器-蓋	(1.0)						外・内:胎土目録 胎子:胎土目録	破片:破片目録	
20	SK-3	土師質土器-蓋	(0.8)	(7.2)					外・内:胎土目録 胎子:胎土目録	反転還元 裏人:胎土目録	
21	SK-3	蓋	最大径 23.6	幅 6.5						胎土目録か?	
22	SK-4	磁器-青磁	(2.6)								
23	SK-4	磁器-蓋	(14.0)	2.8	9		透明釉	内 瓦 裏面:胎土目録 外 一葉巻脚、二葉巻脚 脚部:文字あり			
24	SK-4	白磁-小杯	(2.1)	2.8		ロウロ	透明釉			反転還元 裏面(内)胎土目録	
25	SK-4	磁器-瓶	(10.9)	5.9	(4.8)		透明釉	墨木文?			
26	SK-4	磁器-瓶	(14.0)	9.9	(7.2)		透明釉	墨木文?			
27	SK-4	磁器-瓶	(8.0)	3.4	(8.2)		透明釉	墨木文			
28	SK-4	陶器-瓶	(9.4)	6.8	(4.8)		透明釉		ロウロ+焼色	反転還元	
29	SK-4	新瓦瓦	瓦当径 (11.2)	筒径 3.9	筒高 1.8					表3ヶ所	
30	SK-4	土師質土器-蓋	(10.1)	1.5	8.4				外・内:胎土目録 胎子:胎土目録	赤色胎子 1mm少量 黄色胎子-褐色胎子 胎土目録少量	
31	SK-4	土師質土器-蓋	10.3	1.7	8.5				胎土目録	赤色胎子-褐色胎子 胎土目録少量	
32	SK-4	土師質土器-蓋	10.4	1.7	7.8				胎土目録	黄色胎子-褐色胎子 胎土目録少量	
33	SK-4	土師質土器-土煎	(7.2)			手ひき			胎土目録	赤色胎子-白色胎子-褐色胎子 胎子:胎土目録少量	
34	SK-4	磁器品-蓋?	最大径 15.5	最大径 1.0	厚さ 1.0						
35	SK-4	磁器品-釘	最大径 4.4 幅 1.2	厚さ 0.7							
36	SK-4	蓋	最大径 11.8	幅 1.3							
37	SK-5	磁器-白子	(8.0)	1.4	(3.0)	ロウロ	透明釉+白磁	灰黄褐色		反転還元	
38	SK-5	陶器-瓶	(3.8)	3.2		ロウロ	鉄輪	褐色		胎土目録	
39	SK-5	陶器-水甕	(14.0)	3.3		ロウロ	鉄輪	褐色		反転還元	
40	SK-5	土師質土器-蓋	(2.7)	(8.4)		ロウロ			外・内:灰白 胎子:胎土目録	黄色胎子-白色胎子 胎子:胎土目録少量	
41	SK-5	土師質土器-蓋	10.2	1.9	7.2	ロウロ			外・内:胎土目録 胎子:胎土目録	黄色胎子 0.1mm少量 褐色胎子 0.1mm少量 白色胎子 0.1mm少量	
42	SK-5	土師質土器-筒形	(4.8)			ロウロ			外・内:胎土目録 胎子:胎土目録	黄色胎子-褐色胎子-白色胎子 胎子:胎土目録少量	
43	SK-5	陶器-磁鉢	(6.7)			ロウロ	鉄輪	ロウロ+焼色		黄色胎子 0.1mm少量 褐色胎子 0.1mm少量 白色胎子 0.1mm少量 胎子:胎土目録少量	
44	SK-5	石製品-磁石	長さ (8.2)	幅 5.1	厚さ 1.1					裏面	
45	SK-6	磁器-蓋	(3.0)			ロウロ	透明釉 色紙(茶、黄、白、土黄C50ヶ所)	内 蓋面 色 底文文様			
46	SK-6	磁器-鉢形	(8.0)			ロウロ	透明釉			外・内 裏人あり 裏面の色紙 透黄褐色	
47	SK-6	陶器-瓶	(2.0)			ロウロ	透明釉				
48	SK-6	茶碗-小口	(3.0)			ロウロ	透明釉				
49	SK-6	土師質土器-瓶	(4.5)			ロウロ			厚さ9ヶ所	胎土目録	
50	SK-7	土師質土器-鉢	(3.7)			ロウロ					
51	SK-8	土師質土器-蓋	(1.0)	6		ロウロ				外・内:褐色 胎子:胎土目録	
52	SK-8	土師質土器-鉢	(4.1)			ロウロ				胎土目録(内)3ヶ所	
53	SK-9	磁器-青磁小杯	(7.3)	(4.0)		ロウロ	染付+透明釉	墨木文様?		裏面の色紙 透黄褐色	
54	SK-9	磁器-青磁	(4.0)			ロウロ	青磁	内(土)二葉巻脚		反転還元	
55	SK-9	磁器-磁鉢(染付)	(11.0)	(5.3)		ロウロ	透明釉	墨木文?		反転還元	
56	SK-9	磁器-湯呑	(3.0)	(4.4)		ロウロ	染付+透明釉			裏面底面:砂目磁	
57	SK-9	陶器-片口	(9.0)			ロウロ	透明釉			胎土目録	
58	SK-9	土師質土器-鉢	(11.0)	2.3						胎土目録 胎土目録	



調査区 (上層) 全景 (東から)



調査区 (中層) 全景 (東から)



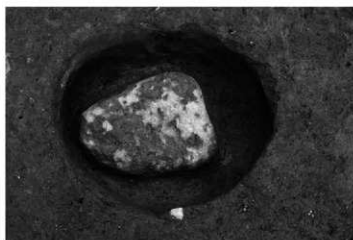
SK-4遺物出土状況（東から）



SK-9完掘状況（東から）



SK-11遺物出土状況（南から）



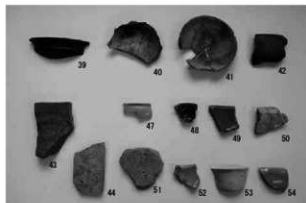
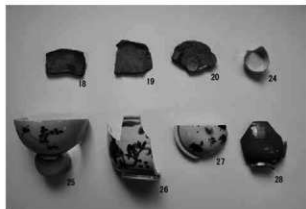
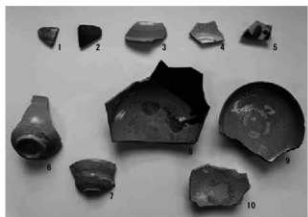
SK-15完掘状況（東から）



SK-28遺物出土状況（東から）



SD-3完掘状況（西から）



出土遺物

報 告 書 抄 録

書 名	中津城下町遺跡 27 次 調 査							
副 書 名	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻 次								
シ リ ー ズ 名	中津市文化財調査報告							
シ リ ー ズ 番 号	第 111 集							
編 著 者 名	浦井 直幸							
編 集 機 関	中津市教育委員会							
所 在 地	〒 871-8501 大分県中津市豊田町 14 番地 3 Tel : 0979-22-1111							
発 行 年 月 日	2022 年 3 月 31 日							
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中津城下町遺跡 27 次 調 査	大分県中津市 1516 番地 1 (京町)	44203	203002	33° 36' 10"	131° 11' 11"	20140821～ 20140918	100	集合住宅 建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
中津城下町遺跡 27 次 調 査	城下町	近世	土坑	陶磁器		17世紀代・18世紀後半 頃の土坑を確認した。		
要 約	土坑約30基・火災処理土坑などを調査した。							

中津城下町遺跡 27 次 調 査

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告 第 111 集

令和 4 年 3 月 31 日

発 行 中津市教育委員会

印 刷 高橋印刷所